

| | | |
|--|---|--|
| <p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p> | <p>「自ら学び、新しい時代を生き抜く力、未来を切り拓く力を育てる学校」 学習におけるICTの積極的な活用や地域貢献・ボランティア活動を通じて、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図り、地域社会で主体的に活躍する人材を育成します。</p> | |
| <p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p> | <p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に 関する方針)</p> | <p>「校訓」・「五省」・「五心」を教育活動の根幹に据え、進取の気風の下に生徒の主体的な活動を促し、主体性・自律性の涵養を図り、新しい時代を生き抜く力、未来を切り拓く力を持った人材を育成する。 ●敬愛の精神と国際的視野を備えた、常に探究し続ける人材 ●自分自身の未来を切り拓く強さを備えた、自律的な人材 ●地域やグローバル社会で活躍できる主体的な姿勢を持つ人材 「校訓」・「五省」・「五心」を教育活動の根幹に据え、進取の気風の下に生徒の主体的な活動を促し、主体性・自律性の涵養を図り、新しい時代を生き抜く力、未来を切り拓く力を持った人材を育成する。 ●敬愛の精神と国際的視野を備えた、常に探究し続ける人材 ●自分自身の未来を切り拓く強さを備えた、自律的な人材 ●地域やグローバル社会で活躍できる主体的な姿勢を持つ人材</p> |
| | <p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に 関する方針)</p> | <p>(1) 認知能力と非認知能力の育成 (2) 自律的な学修者の育成を念頭においた探究活動を中心とした学びの充実 (3) 体験的学習を重視した教育活動の推進とキャリア教育の充実</p> |
| | <p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに 関する方針)</p> | <p>(1) 将来の夢や目標を実現させるため、チャレンジ精神をもって努力できる生徒 (2) 思いやりの心をもって協働して学習や行動ができる生徒 (3) 自らを鍛え向上させようとする学習や学校行事、部活動等に積極的に取り組む生徒</p> |

| 学校運営計画(4月) | | | |
|---|-------------------------------|--|------------|
| 学校運営方針 | | | 評価 (総合) |
| 昨年度の成果と課題 | 年度重点目標 | 具体的目標 | |
| <p>教師が生徒に寄り添うスチューデントファーストの教育が継続され、学校満足度調査では8割以上の生徒が「学校が楽しい」と回答した。ICTを活用した授業づくりや対話的な学びの実践も進み、生徒同士が意見を交わしながら学ぶ場面が増えてきた。 「楽しい」が自主的に学ぶ楽しさにつながるよう、学習への主体性を引き出す工夫が必要である。また、非認知能力の育成について、具体的な実践の方向性をより明確にすることが求められる。さらに、テキスト(書かれた資料や図表)との対話を深めることで自己対話を促し、思考をより深める学びを充実させたい。加えて、校務分掌の縦と横のつながりをさらに強化し、より円滑な学校運営を目指していく。</p> | (1) 安全で安心できる学校環境の整備と協働的な学びの促進 | <p>・人権尊重と道徳心を基盤に、すべての生徒が安心して学べる環境を整備 ・挨拶・清掃の習慣化を通じ、規律とコミュニティ意識を醸成 ・小中学校や地域との連携を深め、地域ぐるみの教育環境を構築</p> | <p>A</p> |
| | (2) 非認知能力の育成と地域貢献の推進 | <p>・学校行事や部活動、ボランティア活動を通じ、協働力・主体性・レジリエンスを育成 ・フィールドワークや地域活動を充実させ、学びを実社会と結びつける ・目標に向けて努力する習慣を育み、最後までやり抜く力を伸ばす</p> | |
| | (3) ICTと探究学習の融合による思考力の深化 | <p>・ICTを活用した個別最適な学びと協働学習を組み合わせ、学習の質を向上 ・「総合的な探究の時間」で問題発見力を重視し、実社会の課題に取り組む機会を増やす ・データ活用や情報リテラシーを鍛え、論理的な思考力を養う</p> | |
| | (4) 双方向対話と表現力の強化 | <p>・相手の意見を理解し、自分の考えを論理的に表現する力を育成 ・授業での記述・発表活動を増やし、言語化する力を強化 ・探究活動の成果を発信し、プレゼンテーションやディスカッションの機会を拡大</p> | |
| | (5) 進路指導の充実と学校の魅力発信 | <p>・基礎学力の定着と進路決定後の学習支援を強化 ・キャリア教育を通じ、職業観・進路意識を高め、主体的な進路選択を支援 ・探究活動や地域連携の過程や成果を積極的に発信し、学校のブランド力を向上</p> | |

| | | 自己評価 | | | | 学校関係者評価 | | | |
|------|--|--|--|--------|---|--|---------|--|---|
| 評価項目 | 具体的目標 | 具体的方策 | 生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等 | 評価(3月) | | 結果の考察と次年度の課題 | 項目ごとの評価 | 学校関係者評価委員会からの意見 | |
| 教務 | 年間を通じて、出席率96%以上を維持する | ICTを積極的に活用し授業改善に取り組む | 出席率97.0% (11月26日現在) | A | B | 2学期現在で出席率97.0%と目標は達成できた。今後、学年や他分掌、保護者と情報を共有しながら、生徒支援の方策についてさらに検討する必要がある。 | A | 特になし | |
| | | 生徒の興味・関心を高め、学びに向かう姿勢をよりよいものとする | | B | | | | | |
| | | 学年や他分掌、保護者と情報交換を行い、連携を強化する | | B | | | | | |
| | 授業満足度80%以上を達成する | 観点別評価に基づく教科指導及び授業改善を行う | 授業満足度 1学期85.0% 2学期90.2% | A | A | | | | 授業アンケートや評価・公開授業月間を通して、自分の授業の反省や改善を各自で行うことができた。また、授業満足度は90.3%と目標は達成できた。教師・生徒双方からの授業改善を継続していきたい。 |
| | | 観点別評価に基づく考査を作成し、実施する | | A | | | | | |
| | | 授業評価規準及び評価基準を生徒に明確に提示する | | B | | | | | |
| | 成績処理の更なる効率化を図る | 校務支援システムの運用マニュアルの周知徹底を図る | 自動採点システムの利用率 90% | A | A | | | | リアテンドントに関するマニュアルを作成することができ、併せて教員への研修を実施することができた。更なる業務の効率化を図っていきたい。 |
| | | 考査振り返りの日の適正な運用を図る | | A | | | | | |
| | | 自動採点システムのマニュアルを整理し、使用を促す | | A | | | | | |
| 広報 | 提供する各種情報が中学生の適切な進路選択に役立つよう志向する | 2回のオープンスクール(8月・10月)と部活動見学デイ(10月)を実施する | ・各種広報イベントに参加した中学生対象アンケート 「本日みなさんが手に入れた情報は、自身の進路選択に役に立ちそうですか?」①96.8% ②100% | A | A | オープンスクールのアンケートの結果、第一回が97%、第二回が100%の中学生及び保護者が進路選択に役立つものであったと回答している。次年度は、地域の中学生及び保護者対象の説明会を開催していきたい。 | A | 志願者数減の原因を検証し、次年度に生かすことが必要。須恵高の良さを校外にもっとアピールできるとよい。 | |
| | | 第4学区進路相談事業(8月)を円滑に運営する | | A | | | | | |
| | | 1日高校体験(随時)等の中学校からの依頼に積極的に対応する | | A | | | | | |
| | 1.25倍(8クラス) 1.20倍(9クラス) 以上の志願倍率の確保 | 組織的・計画的に中学校訪問を実施する | ・令和8年度公立高等学校入試志願状況 | A | A | | | | 運営委員で分担し、26校を前期・後期に2回訪問して、中学校の状況や意見要望を集約し、広報活動に活用することができた。次年度は、中学校からの要望でもあるホームページの充実について強化していく。 |
| | | 動画コンテンツを中心に学校ホームページの情報整理を進める | | B | | | | | |
| | | HP掲載までの流れをより一層整備し、積極的な情報発信を行う | | A | | | | | |
| 研修 | 学校の組織力向上に向けた研修の充実 | アンケート結果をふまえ、校内職員研修会の内容の充実を図る | 職員研修事後アンケート 4回実施。満足度は75%~85% 授業参観アンケート 2回実施。満足度85%以上を達成 | A | A | 職員研修は、各自の知見を広げる機会となり、大変有益であった。研究授業も参観しやすい体制で実施でき、これらを「研究紀要」にまとめ、共有することができた。次年度は、研究授業の実施形態を工夫する。 | A | 特になし | |
| | | 公開授業期間中に研究授業が実施されるよう調整し、参観者を増やす | | B | | | | | |
| | | 紙媒体の「研究紀要」を職員室で閲覧できるようにする | | A | | | | | |
| | 生徒・保護者等の学校満足度80%以上を目指す | 学校満足度調査を生徒2回、保護者等1回実施する | 学校満足度調査 1年生徒・保護者、3年生徒 80%以上の満足度を達成。 | A | A | | | | 学校満足度調査は、実施時期と対象を明確にしたことで、生徒や保護者の実態や学校に対する考えについてより適切な情報収集が可能となり、オープンスクールや中学校訪問の広報活動に役立てることができた。 |
| | | 関係分掌に結果を報告し、スピード感のある対処・対応を行う | | A | | | | | |
| | | 個人面談や三者面談において、納得感ある対応につなげる | | B | | | | | |
| | 生徒を主体とした読書推進活動 | 図書委員を学校行事や合同研修会に積極的に参画させる | 内容、活動に関する発信 (教室掲示、Classiなど) 「図書館だより」を月1回発行。 | A | A | | | | 文化祭や読書週間など、さまざまな場面において生徒主体の活動ができており、来館者数の増加につながった。次年度も他校との交流など、積極的な活動を支援する。 |
| | | 図書委員作成の「図書館だより」を毎月発行する | | A | | | | | |
| | | 図書委員を中心に読書週間の五省読書を周知させる | | A | | | | | |
| 生徒 | 安心・安全な学校環境づくりといじめの早期発見・早期対応をする | 月1回のいじめ等アンケートや、個人面談を実施し生徒支援を行う | いじめ等アンケート | A | A | 生徒課・各学年など、情報共有を徹底し、対応方法を検討しながら迅速に対応することができた。今後も、いじめ対応や生徒支援については、職員研修を行っていく。 | A | 体育祭等の行事を通して、他学年との交流を増やし、学校の活性化につなげることができれば、さらに良くなるのでは。 | |
| | | 日常の生徒支援を徹底し、迅速な対応をする | | A | | | | | |
| | | いじめ対応や生徒支援などの職員研修の実施や外部講師による講演をする | | B | | | | | |
| | リーダーシップ及びフォローアップの育成 | 学校行事において生徒の役割を見直し、リーダー育成の場を増やす | 岳城祭・体育祭における振り返りアンケート | A | A | | | | 各行事では、役割を新たに設置し工夫したものの、生徒会や職員への偏りもあった。今後は、生徒一人ひとりが自己肯定感と自己決定の場をつくっていききたい。 |
| | | 生徒の自主性を下に自己肯定感と自己決定の場を多くつくる | | B | | | | | |
| | | 各々の行事後、自身の「リーダー」or「フォロワー」としての関わり方を振り返らせる | | A | | | | | |
| | 挨拶の徹底と部活動加入率80%以上を目指す | 挨拶の徹底に繋がる活動の協議、立案を生徒会中心とした取り組みを行う | 部活動統計 | B | B | | | | BrushUp運動では多くの生徒が参加したが、新たな挨拶運動への取組ができなかった。部活動では体験期間の生徒参加率高く、有効であった。 |
| | | 挨拶運動等生徒中心の活動を実施し、学校の活性化につなげる | | C | | | | | |
| | | 部活動紹介や部活動体験の実施を部活生と生徒会が連携した取り組みをする | | B | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------------------------|---|--|--|---|---|--|---|---|---|--|
| 保健 | 内科的保健室利用者削減 体育、体育的行事、部活動 での傷病者削減 ※突発的な外傷は除く | ・保健委員による取り組み ①改めて保健だよりの注意喚起 | 保健室利用者統計 | A | B | 保健委員の取り組みは、行事前など時期に応じては発信することができた。熱中症予防や行事の際の怪我については、救護体制の充実、部活動や授業の担当者との連携を更に強化する必要がある。生徒自身の運動能力、危機回避能力の低下が顕著である。 | B | 熱中層の対策は非常に良い。学年コーディネーターの活用度を高めることが必要。 | | |
| | | ・熱中症予防の徹底 ①計画的に水分確保ができる体制をつくる ②熱中症予防教室の充実 | 保健室利用者統計 | B | | | | | | |
| | ・保健体育科、家庭科、部活動との連携の強化 ①生徒自身の身だしなみ意識の向上。服装や爪など、外傷を起こす危険性を事前に排除する ②活動場所の安全管理 | 保健室利用者統計 | B | | | | | | | |
| | ・教職員による「居場所づくり」 ①個人面談週間の効果的活用 ・生徒支援記録の有効活用 ①教員間の情報共有と対応の模索 ②学年コーディネーターの活用 ③保護者等との連携 ④専門機関との連携 | 学校生活アンケート 保健室利用者統計 スクールカウンセリング統計 | B | | | | | | | |
| 生徒支援体制の強化 | ・計画的なサポートヒントシートの活用 | | B | B | 生徒にとって保健室が休養場所、相談できる場所として認識されている現状を鑑み、連絡や報告の体制を整える。学年コーディネーターの役割を明確にする必要がある。他分掌との連携を強化していく。 | B | | | | |
| | 清掃の習慣化と徹底 | ①美化委員の活性化をはかる ②教員の掃除指導の徹底 ③生徒会との連携強化 | | | | | | C | C | 美化委員、担当教員、生徒会との連携を強化し、学校全体で取り組んでいく。 |
| 地域・企画 | コミュニティレンジャーによる地域貢献の活性化およびボランティア活動を通じた非認知能力の向上 | コミュニティレンジャーが活動しやすい体制を作り、地域と交流を深め、地域貢献につながる活動に幅広く参加する | 事後アンケート | A | A | 複数回参加することで地域の方との繋がりが深まり、他の地域貢献活動に繋がっている。依頼数が年々増加し、担当教員を増やすなどの検討が必要である。校外への活動報告については、地域の広報誌等に掲載されることが増えている。 | A | 地域との交流を今後も進め、異年齢の人々と関わる機会を多く設けてほしい。 | | |
| | | 全校生徒対象のボランティア活動に参加し、生徒の主体性、協働性を育成する | | A | | | | | | |
| | | 活動報告を通して成果を校外内に発信する | | A | | | | | | |
| | 小学生との交流会の活性化 | 交流会をより効率よく運営できるような体制を作る | 事後アンケート 小学生の感想 実施会場アンケート PTAアンケート | A | | | | | A | 担当者決め等も含め、概ねスムーズに進めることができた。アンケート集計や分析の方法を工夫し、効率化を図りながら進めていく。 |
| | | PTAとの連携を密に行う | | A | | | | | | |
| | | 活動報告を通して成果を校外内に発信する | | B | | | | | | |
| 質の高い式典の挙行、スムーズな運営 | 企画段階からイメージを共有し、様々な視点からチェック、熟考する | 職員アンケート | B | B | 年間行事予定から式典の早めの計画・準備を徹底していく。Classi配信のみでは浸透しにくいいため、職員会議や朝礼での伝達を行っていく。 | | | | | |
| | 全員で式典を創り上げていく雰囲気作りを行う | | B | | | | | | | |
| PTAとの連携を深め、業務を円滑に行う | PTA役員との連絡・報告・相談を密に行う | 職員アンケート | B | B | 主に会長と連絡を取り合い、協議を重ね、PTA企画を円滑に進めることができた。岳城祭において業務が煩雑だったところあり、さらに見直しが必要である。 | | | | | |
| | 業務の精査、見直しを行う | | B | | | | | | | |
| 進路 | 年内入試合格率80% | 志望理由書の作成を通して、自己理解を進める。3年1学期までに完成させるよう、計画的に指導する | 学校満足度調査(3年2月) 「キャリア教育(進路指導)」 4(最高評価)47.0% 3 42.7% | B | B | 年内入試については、学年の枠を超え、多くの先生方に協力していただき、充実した指導が行うことができた。ただし、学校推薦型と総合型の両方を受験する生徒の対応で一部不備があった。小論文指導は1年次から引き続き計画的に指導を行う必要がある。 | B | 学校として頑張っている姿は見受けられるが、生徒の合格率につながっていない感がある。 | | |
| | | 年内入試受験生徒を全職員に割り振り、小論文・面接指導を行う。また、職員向けに研修会を行う | | A | | | | | | |
| | | 総合的な探究の時間と連動した面接・小論文指導を行う | | B | | | | | | |
| | 県内私大入試合格率50% | 推薦入試後の粘り強い学習を推奨する。共通テストを積極的に受験させるとともに、対策講座(1月下旬)を充実させる | | B | | | | | A | 本年度も、対策講座やセミナーを計画的に実施することができた。課外等については、引き続き自ら積極的に受講するよう、内容の充実が課題である。 |
| | | 放課後課外・長期休業中セミナーを充実させる。積極的に受講するように面談や集会で継続的な呼びかけを行う | | A | | | | | | |
| 1・2年次進研模試国数英総合全国偏差値45以上 | 五省ゼミを使って学習計画を作成させる。また、学習の振り返りを定期的に行う | Benesse High School Online→Compass、FINE SYSTEMで確認 1年11月 3科目43.5 2年11月 文系3教科 45.0 理系3科目 40.5 | B | B | 五省ゼミは、働き方改革等の観点から月曜日を廃止し、週2日での実施に変更した。全職員が共通の認識で取り組むことができたよう、様々な機会に目的の周知を図る必要がある。 | | | | | |
| | 「High School Online」を効果的に使って面談を行い、生徒のモチベーションを維持する | | B | | | | | | | |
| 一般選抜にチャレンジする生徒の増加 | 共通テストの受験者を増加させる。私大志望者にも共通テスト利用・併用入試について深く理解させる | | C | B | 年内入試の併願制度や私大入試の共用など、受験チャンスは増える一方である。確かな分析に基づいて志願先の検討を行うことが課題である。 | | | | | |
| | 推薦型選抜受験を「手段」ではなく「目的」にしないように、生徒向け・職員向けに細かく情報を発信する | | B | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------|--|---|--|---|---|---|--|---|--|---|---|--|---|------|
| 情報 | 機器の運用管理を安定稼働させる。 | 先生方の校務用PCの保守・管理を実施する | | A | A | A | Windows11のアップグレードの確認、年度初め、年度末のPC管理を実施することができた。本年度の修理依頼は14件/年(昨年度は20件/年)で昨年度と同程度で推移している。 | A | 特になし | | | | | |
| | | 生徒用chromebookの保守・管理を実施する | | A | | | | | | | | | | |
| | | 電子黒板のソフトやネットワーク等の保守・管理を実施する | | B | | | | | | | | | | |
| | 学習支援アプリ等のアカウント管理、文書管理、アンケートの管理 | 先生方や生徒の各種アプリのアカウント登録、操作方法マニュアルの整備をする | 先生方のICT活用 | A | A | | | | | | | | | |
| | | 学校全体の公文書の受付、フォルダ保存、管理等をする | Google classroomは93% | / | | | | | | | | | | |
| | | 各種アンケートを先生方や生徒に依頼し、その結果の報告を確実に行う | Google Formは96%でよく活用されています。 | | | | | | | B | | | | |
| 生成AIの活用を検討し、有用に活用する。 | 生成AI活用に関する職員研修会を実施する | 研修後アンケート 5段階 | A | B | | | | | | | | | | |
| | 生成AIを活用したアプリの活用方法について研究する | 理解度(5.4)・93.3% | B | | | | | | | | | | | |
| | 個人情報漏洩についての意識を向上させる | 実践の内容:96.7%で研修目標を達成できた。 | B | | | | | | | | | | | |
| 探究 | 「総合的な探究の時間」の深化 | 目標・方針・年間計画・実施計画の精選・改善に取り組む | 毎時間実施した振り返りの生徒アンケートでは、9割以上の生徒は主体的に探究活動に取り組んでいた。 | B | B | B | 本校独自の「総合的な探究の時間」の構築をめざし、自己探究や発表活動を通して探究活動の深化につなげることができた。 | B | 探究の新たな取組については、今後の継続により良いものに高めていくことが必要。 | | | | | |
| | | 問題発見力を重視し、生徒が実社会の課題に取り組む機会を増やす | | A | | | | | | | | | | |
| | | 振り返りを重視し、探究活動の成果を発表する機会を各学年で設定する | | B | | | | | | | | | | |
| | 校内の推進体制の整備 | 「総合的な探究の時間」の授業担当者による会議を実施する | 職員研修では、8割程度の職員は有意義な研修であったと回答した。 | C | C | | | | | | | | | |
| | | 「総合的な探究の時間」の研修を各学期に1回以上実施する | | B | | | | | | | | | | |
| | | 「総合的な探究の時間」の成果物を適切に評価・記録・管理する | | C | | | | | | | | | | |
| | 校外の教育資源の活用 | 地域の企業や自治体との連携を深め、地域探究の充実につなげる | アンケートでは参加した団体の9割は協力を継続したいとの回答であった。 | B | A | | | | | | | | | |
| | | 大学などとの連携を深め、進路探究の充実につなげる | | B | | | | | | | | | | |
| | | 教育支援業者と協力し、「総合的な探究の時間」の深化を図る | | A | | | | | | | | | | |
| 第1学年 | 基本的生活習慣の確立(自発的に行動することができるよう、自分の生活態度を見直す。) | 週単位で小目標を設定し学年全体で取り組むことで、挨拶・掃除の励行や5分前行動の徹底などを図る | 学校生活アンケート(2月) ・相談できる先生が1人以上いる:82% | B | B | B | 挨拶については学年全体で積極的に行う空気ができている。掃除については、主体的にできていないため、コンクールや他学年との連携によって、掃除を自分たちで責任をもって行えるようにしたい。クラスを超えて先生方が関わられたため、大きなトラブルもなかった。 | A | 特になし | | | | | |
| | | 一人の生徒に対し様々な教員が関わる機会を設定することにより、多様な生徒に学年団として柔軟に対応する | 学校満足度調査 | A | | | | | | | | | | |
| | 非認知能力の醸成(学校生活全般を学びの機会と捉える。) | 学校行事やHR活動を通して振り返りに重点を置くことにより、生徒の規範意識を高める | キャリアナビ | B | A | | | | | | | | | |
| | | 探究活動を通して探究のサイクルを回すことにより、自己の課題を設定する | 非認知能力テスト | A | | | | | | | | | | |
| | ICT機器の効果的な利用(効果的・道徳的な使用方法を習得し、日常生活に生かす。) | Chromebookを有効に活用し、自らのタスクを管理・調整する | Classiアンケート | B | A | | | | | | | | | |
| | | 外部コンテンツを活用し、自分の特性や興味・関心を分析する | 学校生活アンケート | A | | | | | | | | | | |
| | 情報整理・発信能力の育成(収集した情報を自らの言葉でまとめ、他者に伝える。) | 地元企業や行政機関、大学等と連携し対話や実践を繰り返すことにより、様々な職業について知る。 | 学びのスキルチェックアンケート(9月) | A | B | | | | | | | | | |
| | | 総合的な探究の時間をはじめ、各授業や行事で情報を収集し、まとめ、他者に発表する機会を多く設定する | ・探究によって将来について考えている。に肯定的な回答78% | C | | | | | | | | | | |
| | 学習習慣の定着(主体的に学習する力を身に付けるために、学習の仕方を習得する。) | 予習・授業・復習の学習サイクルの徹底と外部コンテンツの活用により、家庭学習の習慣づけを行う | 学校生活アンケート(2月) ・学校での勉強が楽しいと思うか。に対して肯定的な回答66% | B | B | | | | | | | | | |
| | | 考査や五省ゼミ、振り返りの日などの学習機会を利用して学習のモデルプランを示すことにより、自分に合った学習の仕方を学ぶ | ・勉強がわかるように努力しているか。に対して肯定的な回答72% | A | | | | | | | | | | |
| | 第2学年 | 基本的生活習慣の確立 | 中堅学年として、「五省」を根幹に据えた指導を展開し、生徒のウェルビーイングを高める | 学校生活アンケート(2月) あなたは、学校生活が充実していると思っていますか。に対して肯定的な回答98% | B | | | | | B | A | セミナー研修の指導員や生徒会代議委員の活動の中で、五省の指導や意識づけを生徒主体で行うことができた。次年度は五省の完成を目指す。授業や行事の中でルールやマナーを理解し、遵守することの大切さを引き続き指導していく。 | A | 特になし |
| | | | 挨拶や返事、掃除の徹底や時間の厳守など、当たり前なことを当たり前に行える集団の育成を目指す。また、社会や家庭、学校等のルールをしっかり守らせる指導を行う | | B | | | | | | | | | |
| 心理的安全性の高い、充実感のある学校環境づくり | | こまめにコミュニケーションを取り、困っていることがないか積極的に声かけを行うことで、質問・相談しやすい環境を作る | 学校生活アンケート(2月) 困っているときに手助けしてくれる人がクラスの中にいますか。に対して「いる」という回答99% | A | A | | | | | | | | | |
| | | 成功体験を増やすとともに失敗への恐怖心を減らしていけるような指導を行う。また、学年、分掌、事務室と保護者との連携強化に努める。 | | A | | | | | | | | | | |
| 自ら進んで学びに向かうたくましい生徒の育成 | | 基礎学力の定着を目指す。そのため、ICTの積極的な活用を通し、個別最適な学びの充実を図る | 授業アンケート | A | A | | | | | | | | | |
| | | 学習記録を取り、自身の取り組み方を可視化させることで、自己分析を行い、学習に取り組む姿勢を確立させる | Classi(学習記録) キャリアナビ | A | | | | | | | | | | |
| リーダー育成とフォロワーシップの醸成 | | さまざまな協働活動を通して、リーダー層を育成していくとともに、自律的かつ主体的に考えて行動できるフォロワーシップを養う。 | 学校生活アンケート(2月) あなたのクラスは、みんなで協力し合っていると思いますか。に対して肯定的な回答99% | A | A | | | | | | | | | |
| | | 主体的に学校行事(特に文化祭、修学旅行)や部活動等に取り組ませ、グリップやコミュニケーション力、レジリエンスの伸長を図る | | A | | | | | | | | | | |
| 進路意識の向上 | キャリアナビを活用し、社会への関心を広げながら自分の興味・関心を見つけて学習、志望系統へのこだわりを気付く学習を行う | 進路希望調査 | B | B | | | | | | | | | | |
| | 国公立大15名、西南学院大30名、福岡大100名を目標とした、3年間を見通しての教科指導および進路指導を行う | Classi(学習記録) キャリアナビ | A | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|------|----------------------------------|---|--|---|---|---|---|---|--|
| 第3学年 | 安心して通える学級・部活動の環境づくり | 進路未決定者への配慮を欠いた言動や遅刻・欠席等、進路決定後の学校生活を見据えた学年・クラス経営を行う。 | 学校満足度調査(3年2月) 「安全で安心な学校生活」 【4】45.3% 【3】44.0% 「高校生活の楽しさ」 【4】52.8% 【3】36.8% | A | A | A | それぞれの受験時にきちんと教員が関わったからこそ、最後の通常授業まで配慮ある行動ができていた。大きな出来事に対しても、養護教諭をはじめ全職員の協力を得ながら組織的に対応することができた。9割近くの生徒が安心して通える環境で高校生活を楽しく過ごすことができたと感じている。 | A | 個に寄り添った進路指導の在り方は、他行と差別化されており非常に良い。引きつd吹き学年を越えて指導してもらいたい。 |
| | | 適切な挨拶や丁寧な掃除の指導を粘り強く行い、アンケート内容をはじめ相談等があれば初期対応に注力し、組織的に対応する | | B | | | | | |
| | チャレンジ経験の推進と、体験的活動とおした非認知的能力の伸長 | 学校行事や地域のボランティア活動など色々なことにチャレンジし、様々な立場・役割を経験させ、協働力や主体性を育成する | 学校満足度調査(3年2月) 「体育祭などの学校行事」 【4】50.2% 【3】36.5% 「生徒同士の関係」 【4】48.9% 【3】38.4% | A | A | | | | |
| | | 授業における対話的な活動や学校行事の目的をしっかりと認識させ、質の向上を図ることで主体的に学ぶ姿勢を醸成する | | A | | | | | |
| | 自律的に自走するための、ICTを活用した授業展開と学習支援の実施 | 基礎的基本的な知識・技能の定着のためにICTを文具として活用させ、個別最適な学びに生かす | 学校満足度調査(3年2月) 「授業の内容・レベル」 【4】29.0% 【3】57.3% 「学習指導」 【4】34.5% 【3】54.1% | A | B | | | | |
| | | 生成AIの適切な活用と留意事項を教員が共有し、共通認識のもとで適宜活用させ、記述力と思考を深める習慣を確立する | | B | | | | | |
| | 双方向性を高め、意見を具体的かつ創造的に表現する力の強化 | 行事ごとにふり返しスライドを作成・紹介し、点ではなく線の視点で自己認識を深めるとともに表現力向上を図る | 体育祭のふり返し作成 85% 学校満足度調査(3年2月) 「先生との関係」 【4】45.9% 【3】42.7% | B | B | | | | |
| | | 表現や思考に対する具体的なフィードバックを行い、それを基にした次のステップの改善活動を促し、自己反省の習慣化を図る | | A | | | | | |
| | 自己実現のための進路意識向上とキャリア形成の充実 | 五省ゼミ等を活用し、学習記録や模試の成績推移など個人面談で適切な指導を行い、進路実現に必要な学力の定着を図る | 学校満足度調査(3年2月) 「大学などの進路実績」 【4】40.4% 【3】48.5% 「キャリア教育(進路指導)」 【4】47.0% 【3】42.7% | B | A | | | | |
| | | 進路テキストの学習や進路行事をとおして進路探究活動を行い、望ましい職業観を育み、自己の適性について考えを深めさせる | | A | | | | | |

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・ 志願者減少の原因の分析、地域が本校に求めるニーズの確実な把握に努め、「選ばれる学校づくり」を行う。
- ・ 総合的な探究の時間「スエドリプロジェクト」やDXハイスクールの取組を通し、生徒のよさを校外にアピールする機会を多く設ける。
- ・ 「スエドリプロジェクト」を学年進行で拡大することにより、異学年の縦のつながりを強化し、学校活性化につなげる。
- ・ 一人一人の夢に寄り添うという本校の柱を大切に、ボランティア活動等で地域に貢献できる人材を育成することにより、地域に根差し、地域に愛される学校づくりを進める。

| 学校関係者評価 | |
|-----------------|-----------|
| 評価(総合) | 自己評価は |
| B | A:適切である |
| | B:概ね適切である |
| | C:やや適切でない |
| | D:不適切である |
| 評価項目以外のものに関する意見 | |
| 特になし | |